

当院採用の経皮吸収型製剤一覧Ver.2.0 (局所作用製剤を除く)

商品名 (薬効分類)	貼り替え	貼付部位								MRI検査時の対応	剥がれたときの対応	分割使用(テープの切断)について	
		胸部	上腕部	腹部	背部	腰部	臀部	大腿部	その他				
ワンデロパッチ (鎮痛薬、医療用麻薬)	24時間毎	○	○	○				○	※1	安全性が検討されていないため剥離することを推奨 ¹⁾ 。	粘着力が弱くなった場合はパッチを剥離し、直ちに同用量の新たなパッチに貼り替えて、次回貼り替え予定であった時間まで貼付 ²⁾ 。	切断不可 ²⁾	
デュロテップMTパッチ (鎮痛薬、医療用麻薬)	3日毎	○	○	○				○	※1	安全性が検討されていないため剥離することを推奨 ¹⁾ 。	粘着力が弱くなった場合はパッチを剥離し、直ちに同用量の新たなパッチに貼り替えて3日間貼付 ²⁾ 。	切断不可 ²⁾	
フェントステープ (鎮痛薬、医療用麻薬)	24時間毎	○	○	○				○	※1	安全性が検討されていないため剥離することを推奨 ¹⁾ 。	粘着力が弱くなった場合は絆創膏等で縁を押さえる。完全に剥離した場合は、直ちに同用量の新たな本剤に貼り替え、次回貼り替え予定であった時間まで貼付 ²⁾ 。	切断不可 ²⁾	
フェンタニルクエン酸塩1日用 テープ「第一三共」 (鎮痛薬、医療用麻薬)													
ナルスバンテープ (鎮痛薬)	7日毎	前胸部	上腕 外部		上背部					側胸部	アルミを含有し、本剤の貼付部位に火傷を引き起こすおそれがあるため、前もって 本剤を必ず剥離 ²⁾ 。	粘着力が弱くなった場合は、直ちに貼り替えて7日間貼付 ²⁾ 。	切断不可 ²⁾
ジクトルテープ (鎮痛薬)	24時間毎	○	○	○	○	○		○			画像への影響について検討していないため剥離を推奨 ¹⁾ 。	新しい薬剤を貼付し、次回はいつも貼り替えていた時間に貼り替える ²⁾ 。	承認外で 推奨しない 。 (製剤的には可能) ¹⁾
ピソノテープ (降圧薬・抗不整脈薬)	24時間毎	○	○		○						金属を含まないため、剥離する必要はないと思われる ^{1,3)} 。	汗を拭きとり絆創膏などで固定し 再貼付 。それでも剥がれた場合は次回の貼付時間になってから新しいテープを貼付 ³⁾ 。	承認外で 推奨しない 。 (分割使用する際は、残りは遮光保存し翌日使用) ¹⁾
ブランドルテープ (虚血性心疾患治療薬)	24時間または 48時間毎	○※2		上腹部 ※2		○※2					支持体に金属を含まないため、剥離する必要はないと思われる ¹⁾ 。	再貼付可能 。汗で浮いたり、大きなシワができた場合は、汗で濡れた肌を清潔なタオルなどで拭き取り、シワを伸ばしてから、部位を変えて貼り直す ³⁾ 。	承認外で 推奨しない ¹⁾ 。
ニトログリセリンテープ「トロー」 (狭心症治療薬)	24時間毎	○※2	○※2			○※2					支持体に金属を含まないため、剥離する注意喚起は行っていない ¹⁾ 。	新しい薬剤を貼付し、次回はいつも貼り替えていた時間に貼り替える ¹⁾ 。	切断時のデータなく、認められた用法でないため 推奨しない ¹⁾ 。
ツロブテロールテープ「久光」 (気管支拡張薬)	24時間毎	○	○		○						添加物に金属を含まないが、画像診断に影響が出る恐れがあるため剥離を推奨 ¹⁾ 。	データがないため医師の判断 ¹⁾ 。 (参考：先発品ホクナリンテープ) 貼付12時間後に約74%の薬物が皮膚へ移行していることが報告されており、貼付後12時間以上経過し、症状が落ち着いている場合は、次回の貼付時間になってから新しいテープを貼付 ³⁾ 。	切断時のデータなく、認められた用法でないため 推奨しない ¹⁾ 。
アレサガテープ (抗ヒスタミン薬)	24時間毎	○	○	○	○						添加物に金属を含まないが、画像診断に影響が出る恐れがあるため剥離を推奨 ¹⁾ 。	新しい薬剤を貼付し、次回はいつも貼り替えていた時間に貼り替える ²⁾ 。	切断時のデータなく、認められた用法でないため 推奨しない ¹⁾ 。
ネオキシテープ (過活動膀胱治療薬)	24時間毎			下腹部		○		○			金属を含まないが、画像診断等に影響が出る恐れがあるため剥離を推奨 ¹⁾ 。	新しい薬剤を貼付し、次回はいつも貼り替えていた時間に貼り替える ²⁾ 。	切断時のデータなく、認められた用法でないため 推奨しない ¹⁾ 。

※1:貼付部位は「胸部,上腕部,腹部,大腿部等」 ※2:自動体外式除細動器(AED)の妨げにならないように貼付部位を考慮するなど、患者、その家族等に指導することが望ましい²⁾。

参考文献：製薬会社問い合わせ¹⁾、添付文書・IF²⁾、製薬会社HP³⁾

商品名 (薬効分類)	貼り替え	貼付部位								MRI検査時の対応	剥がれたときの対応	分割使用(テープの切断)について
		胸部	上腕部	腹部	背部	腰部	臀部	大腿部	その他			
エストラーナテープ (卵胞ホルモン製剤)	2日毎			下部				○		導電性のある金属を含まないが、画像診断に影響が出る恐れがあるため 剥離を推奨 ¹⁾ 。	医師の判断により新たなものを貼付または次回貼付時に貼付する ¹⁾ 。	切断不可 ²⁾
メノイドコンビパッチ (卵胞ホルモン・黄体ホルモン混合製剤)	3~4日毎 (週2回)			下部						導電性のある金属を含まないが、画像診断に影響が出る恐れがあるため 剥離を推奨 ¹⁾ 。	貼付部位を変えて再貼付 、それでも剥がれる場合は新たなものを貼付 ^{1,2)} 。	切断不可 ²⁾
アリドネパッチ (認知症治療薬)	24時間毎	○	○		○					導電性のある金属を含まないが、画像診断に影響が出る恐れがあるため 剥離を推奨 ¹⁾ 。	新しいパッチを貼付し、次回はいつもと同じ時刻に貼付 ²⁾ 。	切断不可 ²⁾
リバスチグミンテープ「久光」 (認知症治療薬)	24時間毎	○	○		○					添加物に金属を含まないが、画像診断に影響が出る恐れがあるため 剥離を推奨 ¹⁾ 。	新しい製剤に貼り替え、翌日より通常通りの時間に貼り替える ²⁾ 。	切断時のデータなく、認められた用法でないため 推奨しない ¹⁾ 。
ロナセンテープ (統合失調症治療薬)	24時間毎	○		○	○					導電性のある金属を含まないが、画像への影響や安全性について検討していないため 剥離を推奨 ¹⁾ 。	再貼付 又は必要に応じて新しいものを貼付 ²⁾ 。	切断不可 ²⁾
ニュープロパッチ (パーキンソン治療薬・ レストレスレッグス症候群治療薬)	24時間毎		○	○				○	肩 側腹部	支持体にアルミニウムは含まれないので剥離する必要なし ³⁾ 。	新しいパッチを貼付し、次回はいつもと同じ時刻に貼付 ³⁾ 。	切断不可 ²⁾
ハルロピテープ (パーキンソン治療薬)	24時間毎	○	○	○				○	側腹部	導電性のある金属を含まないが、画像への影響や安全性について検討していないため 剥離を推奨 ¹⁾ 。	直ちに新たなテープを貼付し、次の貼り替え予定時間には新たなテープに貼り替える ²⁾ 。	切断時のデータなく、認められた用法でないため 推奨しない ¹⁾ 。
ニコチネルTTS (禁煙補助薬)	24時間毎		○	○	○	○				支持体にアルミを含有し、貼付部位に火傷を引き起こす可能性や、支持体が破裂する可能性があるため 必ず剥離 ²⁾ 。	新しいものを推奨するが、粘着力低下の場合は テープ等で固定して再貼付も可 。次回はいつも貼り替えていた時間に貼り替え ¹⁾ 。	リザーバー型薬剤であり、放出速度が変わるため 切断不可 ¹⁾ 。

参考文献：製薬会社問い合わせ¹⁾、添付文書・IF²⁾、製薬会社HP³⁾

【備考①】経皮吸収型製剤の切断について

経皮吸収型製剤の切断については、理論的に可能なものについても、薬物動態のデータがないことや、剥がれやすくなることなどから、**原則として推奨されておりません。**

【備考②】AED(自動体外式除細動器)時の対応について



- ・MRIと同様に、**支持体に金属を含む貼付剤については必ず剥離してください。**
- ・それ以外の貼付剤についても、AEDの添付文書の禁忌・禁止欄に以下の記載があるため、**AEDのパッドを貼る位置に貼付剤がある際は、貼付剤を剥離してください。**

(例) 自動体外式除細動器 AED-3200シリーズ 添付文書

使い捨てパッドを貼る位置に検査などの目的で、患者に他の装置の電極が装着されていたり、薬剤が貼付されているときは、それらを取り除いてから使い捨てパッドを貼ってください。(電気ショックの効果が得られず、電極や薬剤を通して流れる電流により熱傷を生じることがあります。)